



Justice & Vigor

発信：弁護士法人
シティサンライズ法律事務所
弁護士 浦田 益之
弁護士 和田 恵
弁護士 磯谷 太一
TEL 058-265-1708
✉ info@urata-law.com

沈黙を強いられた原爆被爆者がいた

- 1 被団協にノーベル平和賞が与えられ、また、ノルウェーにある選考委員会の委員長コルゲン・バトネ・フリードネスが来日し、被爆者とも交流した。
そして、「記憶の承継は重要な平和の営みであり、世界が必要としている光だ」と語った。
選考委員会の関係者が平和賞受賞者の母国を訪問するのは初めてのことだ。
被団協の事務局長木戸季市氏とは、私も、誌上とラジオで、3回対談した。
被団協が掲げる核廃絶の訴えを広く知ってもらおう企画として行った。
今や、同氏は、「平和の特使」となった。
- 2 これとは別に、忘れられた被爆者たちがいた。
その一つは、1945（昭和20）年7月16日、原爆の実験地とされた米西部ニューメキシコのトリニティ・サイトの風下に居た原住民だ。
原住民は、実験があることも知らされておらず、被害を受けたことを訴えても、米政府はその声を頭から無視し続けてきた。
1990年には放射線被爆補償法が制定されているが、原住民の場合は枠外とされてしまった。
それでも、原住民は、声を上げ、2025（令和7）年7月16日、原爆の投下地に「忘れられた被爆者」を伝える標識を設置した。
米国としては、最初の原爆被害者が自国民ではあってはならず、これを永く隠してきた。
その嘘が天下に晒されることになった。
ここに最初の原爆被爆者がいたのに、何もなかったものとして、存在そのものが否定されてしまっていた。
原住民にしてみれば、暮らしていた場所が破壊され、文化も軽んじられ、心や体が傷つけられた。
核開発は弱者を踏みつけて発展してきた。
もう一つは、日本の原爆被爆者でアメリカに渡った人たちになる。
彼らが、アメリカに在住するには原爆のことを口にすることが許されなかった。
沈黙が生きる手段となった。
何しろ、アメリカは、原爆の投下について、自国の若い兵士の命を守るためにしたことであり、それによって第二次世界大戦を終結させることになったと評価している。
皆が正当行為と認識しており、これを批判することなどはできなかった。
それが戦後80年が経過して、時代の空気も変わってきた。
アメリカの世論も、「原爆は投下すべきではなかった」が3割を超えるようになった。

特別コーナー 「私たちも情報提供します」

今年、ケンブリッジ大学神学部でP h Dをいただいた小論文です。
ダーウィンはケンブリッジ大学卒です。

「人間は進化をしているのだろうか」 中田 実

私は、進化論を深く研究した訳ではなく、また、科学者や生物学者でもありません。

従って、ダーウィンの理論を評価する立場にないかもしれません。また、進化論を信じている方々の考え方を徹底的に否定するつもりも、ありません。しかし、クリスチャンとして疑問を持っているため、ここで私の考えていることを分かち合いたいと思います。まずは、善悪の知識と罪について考えたいと思います。

進化論は人間が猿から進化したと説いています。確かに、人間と猿は似ており、また猿の頭の良さには驚かされることもあります。猿から人間への進化のつながりが確認できていない、ミス・リングと言われる問題を抱えているにせよ、猿が人間へ進化したという進化論にも一理あるように思います。実際、クリスチャンの間でも、神が進化をもって人を作りあげた可能性があることを説く流れもあります。この論争は単純に解決出来る問題ではないように思います。

私は、人間と猿との徹底的な違いは、体の造りや機能うんぬんよりも、善悪の知識と罪があるかないかの点ではないかと思えます。物事の善悪を見分け、その上でとるべき行動を自分の判断をもって自由に選択することが出来るか、誤った行動をとった時に罪意識が生じるか、ということです。誤った行動をとった時、人間だけが自分の罪を認めず、責任転嫁をしようとする傾向を持っています。また人間は、罪を認めず責任転嫁をする面を持ちながらも、逆に正義が行われる願望を持っています。これらは、持って生まれた人間性です。猿は罪意識も、まして責任転嫁をすることも、正義を求める心もありません。猿は本能で生きているからです。

聖書では、神が次のように人間を造ったと記しています。

創世記1：26－27お聞きいただいた上で、私がお読みいたします。「そして神は、『われわれに似るように、われわれのかたちに、人を造ろう。そして彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。』と仰せられた。神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。」

創世記2：7「その後、神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きものとなった。」

したがって、人間は神のかたちに造られましたが、神がどのような御方であるかを知らなければ、人間の本来の姿を見出すことが出来ません。しかし、これは神学的に幅の広い教理が伴っているため、本日のメッセージでは避けさせていただきたいと思えます。

また、聖書によると人はエデンの園に置かれて神様から次のように言われました。

創世記2：16－17「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

聖書は、人間がサタン誘惑に陥り、神の命令に背き、善悪の知識の実を食べてしまったために、園から追放されたと記しています。したがって、人間は初めて罪を犯したため善悪の知識を得てしまい、死に定められたのです。

もし人間が猿から進化したのなら、本能で生きる猿が、いつ、どのようにしてこのような善悪の知識を得ることが出来たのでしょうか。もしそれも進化の過程で得たのだとするな



ら、戦争や環境汚染など歴史的に多くの過ちを犯してきている人類は、本当に進化していると言えるのでしょうか。

善悪の知識があることは、進化の問題として扱われるのではなく、人間独特の変わらぬ本質の一つである罪との関係が深いように感じます。

次に、罪からの救いについて述べたいと思います。

悪は存在しないという考え方もあります。悪の概念は、勝手に人間が考え出したもののようにも見えます。

しかし、実際、人間には正義を求める願望があります。他人がした悪に対しては罰が与えられることを望みます。皆、何が正しくて何が悪いかの認識を持っているからです。

また、もし人間に悪がないのならば、刑法は必要ないでしょう。社会的に罪が定められていることは、人は社会の罪を犯す可能性があることを証明しており、善悪の知識が存在していることを明らかにしています。

刑法は、社会が、特定のある行為は認められるべきではないと法的に定め、犯罪者には刑が加えられるように示した法律です。

どの社会でも、何が犯罪と定められるかは異なるものの、過ちを犯したら刑を加える規範が存在します。刑法は、それぞれの社会が定めたものです。

神様は、エデンの園で、死を、人間の罪に対する刑罰としました。人は神の戒めに背き、罪に定められました。

ここで明らかにしたい点があります。刑法の罪は社会が定めたもの、人間が定めたものであり、(間をとる) 聖書の罪は神が定めたものです。

神が定めた罪の例として、十戒があります。出エジプト記 20 : 1 ~ 17。お読みします。

十戒で定められている罪は、現代社会では罪とは定められない内容のものもあります。

他にも、神が定めた罪について、パウロは次のように記しています。

ガラテヤ 5 : 19 - 21 「肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです (...) こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。」

これらの罪を犯しても、人間社会では罪にならないことがあります。神様の裁判では罪と定められます。

では、この神に対する罪の解決法はなんでしょう。それは、神が定めた方法によらなければなりません。

すなわち、イエス様を救い主として受け入れることです。パウロは次のように指摘しています。

ローマ 3 : 23 - 24 「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ、神の恵により、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」

ローマ 6 : 23 「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです」

また、I ヨハネ 1 : 9 「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

神の御前で全ての人は罪人であるため、私たちは祈りをもって神に悔い改める必要があります。

神は人間の罪の贖いのために、イエス様を与えてくださいました。そして、罪のないイエス様が私たちの身代わりとなって、十字架の上で罪の代価を支払われました。イエス様は死なれましたが、三日目によみがえられ、四十日後に天に上られ、世の終わりに戻ってこられます。イエス様は死に打ち勝ったのです。したがって、イエス様を自分の救い主として受け入

れるものは、死から救われるのです。悪が存在しないならば、罪も存在せず、イエス様の救いの御業も無意味になります。

ヨハネ3：17「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」

次に進化論の影響について少し考えてみたいと思います。

ダーウィンは、哲学者スペンサーと共に適者生存を唱えました。適者生存とは、その環境に適した個体が生き残るという意味ではなく、適した種が子孫を残していくと言う考え方のようです。しかし、ナチスは、進化論を曲解し、弱者である障害者を迫害し、それがエスカレートして、ユダヤ人の迫害に変わりました。

2016年7月26日に起きた相模原障害者施設殺人事件の犯人もナチスの思想の影響を受けていました。いわゆる、弱肉強食の考えです。ダーウィンが唱えていないにせよ、弱肉教職という考え方は広く浸透しています。しかし、強いからと言って弱いものを見下し、排除させようとする考え方は避けるべきです。

神のかたちに造られている人はそれぞれ尊重されるべきであり、差別の対象となっていはいけません。経済的に、または技術的に進んでいる国々が存在します。頭の良い人、スポーツ万能な人、美しい人などが存在します。

しかしながら、第一サムエル16：7にはこうあります。「人はうわべを見るが、主は心を見る。」です。

またイエス様は、高慢なパリサイ人達が取税人達を見下していたその時、このように仰いました。

「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」ルカ5：31－32

結論に入りますが、

社会や文化、技術がどんなに発展しても、進化論に救いはありません。

今は、文化や技術の上では著しい発展をとげていますが、犯罪や殺人は、毎日のように起こっています。

また世界を恐怖に陥れる戦争のきざしは、一向に収まる気配はありません。進化論は、なぜ、進化した人間が、いまだに罪を犯し続けているかを説明しきれしていません。また、たとえ、進化していたとしても、進化によって人は救われません。罪人だからです。その罪を十字架で赦してくださった主イエス様の愛にしか救いはありません。そのイエス様に今日も自分の人生を明け渡していきましょう。そして、心から神様をほめたたえ、主とともに一週間を過ごしましょう。

中田 実 (なかだ みのる) 1970年神奈川県生まれ。京都大学大学院を修了、ブラジル弁護士資格を有し、地方裁判所、地方検察庁、法テラスで司法通訳人を務める。

著書に『WTOと地域主義』がある。

次回案内

岐阜放送「ぎふチャン」

浦田益之の言われてみれば… 9月24日(毎月第4水曜日午後4時5分から)